

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 23日

事業所名 障害児通所支援事業 ふらわーず

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		* 1Fと2Fに分けて支援 * 戸外活動を多く取り入れる	* 夏の台風被害がひどく、2階ベランダが現在、使用できない状況。今後、工事が入る予定であるが、一向に進んでいない。夏までにベランダが使用できないと、子供たちの大好きなプール活動が令和6年度は、出来ないかもしれない。
	2 職員の配置数は適切である	4	1		* 男性職員がいない為、厳しい状況。ホームページ等事業所アピールをしているが難しい。職員の配置数は、10名定員の2以上は、適切に守れている。同性介護を徹底していきたい為、今後も男性職員が入ってくるように求人は、出していく予定。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	1	3	* 物の場所や伝えたい事は視覚化し壁などには貼っている。	* 事業所自体、1階・2階どこからでも見える変わったつくりになっている為、2階からでも1階に声を掛けて情報伝達もやりやすい。 * 出来るだけ、刺激にならないようにカーテンなどで目隠しをしている。また、2階学習室は、壁に展示物をせずに勉強に集中しやすいようにしている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		* 清掃や消毒など頻繁に行っている	* 毎日の清掃・消毒は欠かさずに行っているため、衛生面に関しては心地よく過ごせる空間となっている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		* 毎日ミーティングを行い前日のふりかえりを行う。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			* 年度末の父母会にて評価の説明。ご意見にあった事に回答し対応
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			* 事業所評価結果に関しては、父母会にて配布し、説明している。また、父母会后、自社のHPに掲載。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5			* 社労士の個人面談を実地 * 第三者評価は、今後実施できればと考え中。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		* 研修情報を提供してもらっている	* 事業所内の研修(発達センターの研修DVD視聴)やオンライン研修など研修案内を職員に配布し、職員の「行きたい」を後押ししている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		* お子さんの発達段階などを考え、保護者+本人を交えたモニタリングを実施することで、本人の想いを保護者と共有でき、本人の意識が変化。お子さんの状況や卒業(今後の進路が明確なお子さんに関しては..)を見据えた状況においては、本人も同席のモニタリングを行いながら、保護者+本人と作る支援計画も今年度は、実施した。	* 5領域を入れたモニタリング表を作成し、11月のモニタリングから職員と一緒に検討しているところ。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			* 5領域を入れたモニタリング表を作成し、11月のモニタリングから職員と一緒に検討しているところ。まだ、独自で作成しているため、お子さんや活動内容によっても変更していく予定。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5		* 独自の個別支援計画⇒【想いのプラン】に具体的な支援内容を記載	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5			* 全体の活動プログラムは、前月の末までに管理者が作り、活動自体は、職員同士で意見を出し合いながら作り上げている。活動進行も分担しながら行っている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		* 毎日いろいろなプログラムを実地	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	* 次の日に職員間で振り返り共有を行っている * ラインなども活用しながら共有している	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		* ICT化により記録がスムーズに検討しやすい(令和5年度より導入)	* ICTを導入しているが、まだ、全職員が使いこなせていない状況なので、事業所研修を入れながら、誰でも気軽に記録等が出来るようにしていきたい。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5			* 日々のミーティングにおいてお子さんの変化などを全職員が共有できるようにしている。何か変化だけでなく、良かった点などを職員同士で話し合える時間を作っている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		* 基本、児童発達支援管理責任者が参加するが、時には、主で支援している職員も一緒に参加することもある。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5			
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2			* 医療ケア児の受け入れは、行っていない。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2			* 医療ケア児の受け入れは、行っていない。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			* 事業所側は情報共有に積極的だが園からは積極的に感じられる時もある
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1		
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	4	* 地域の公園にいくことで障害のない子と過ごす事ができる	* 情報提供は行うものの保護者が積極的ではないように感じる。引き続き発信していく。 * 活動で所外に出る事で、地域の子供たちと一緒に遊ぶ機会はあるが、教育施設(保育所・認定こども園など)へは、出向いていない。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4			* 自立支援協議会の役員として参加している。また、何か部会などの参加依頼があれば、是非とも参加している。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	3	*年に2回のモニタリング(保護者面談にて)助言を行っていた。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		* 連絡帳でやりとりをしたり、保護者と送迎時に会うときに話を聞いて助言している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1		* グループLINEを作成。父母会も年に1回開催。今後は、父母との交流を多く取っていく予定。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		* ホームページやブログ、ツイッターを活用している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5		* 地域住民が参加できる規模の行事を開くことは難しいと思うが逆に地域の行事に参加している。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実地している	5		* 事業所で感染者が出た際は、速やかに保護者へ感染状況をお知らせする手紙を配布し、保護者とも情報共有している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		* 避難訓練を年に2回行い、子供たちに分かりやすいように内容を考え伝えている。(訓練テーマは、その時々で変えている)	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5		* 対応策定をマニュアル化し提示している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	* ヒヤリハットノートを作り、職員全体で共有している。また、ヒヤリハットが起きた時は、ミーティングなどで危険な行動について話し合いをしている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		* 事業所外での虐待防止研修会に毎年、職員が参加している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
--	--------	----	-----	---------	------------------------------